

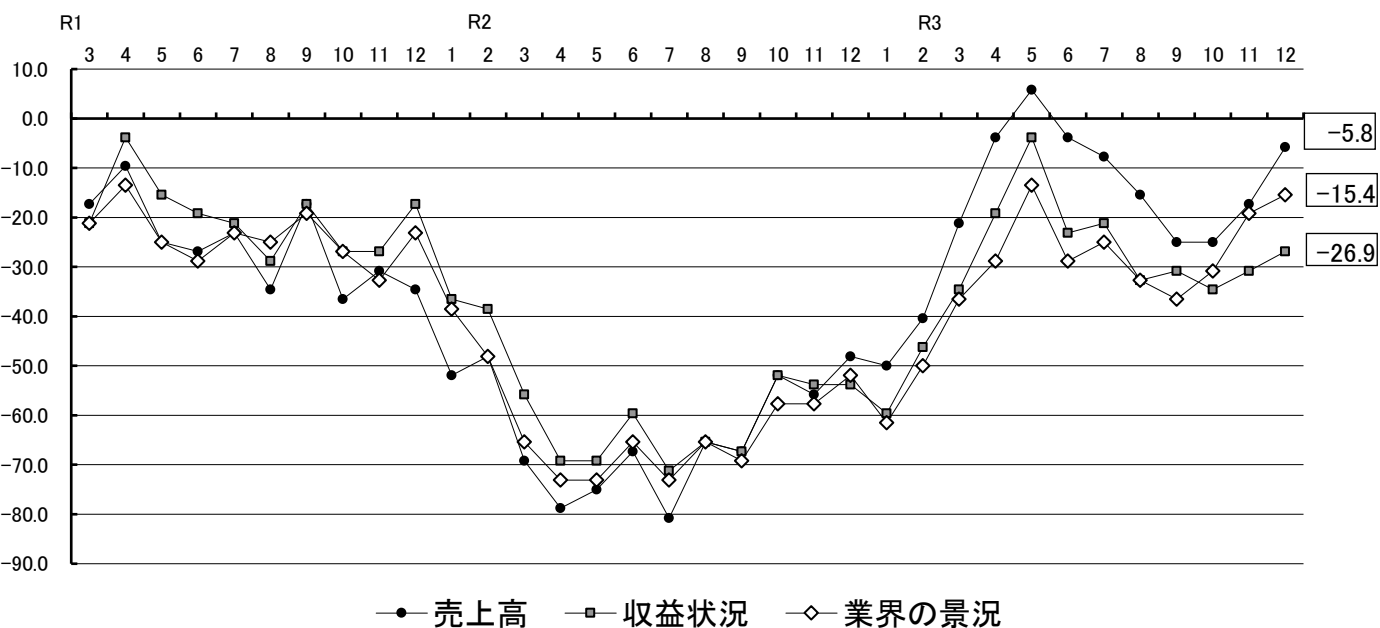
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和3年12月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標「売上高」「収益状況」「業界の景況」はすべて上昇した。
- 依然として製造業で「食料品製造」、非製造業で「小売業」が特に厳しい状況。
- 業況は上向きになりつつあるが、オミクロン株感染増加の懸念もあり予断を許さない状況といえる。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-5.8	+11.5	+1.6	+5.1
収益状況	-26.9	+3.8	-19.6	+6.5
業界の景況	-15.4	+3.8	-16.6	+5.7

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より11.5ポイント上昇し、-5.8ポイントとなった。全国においては、前月より5.1ポイント上昇し、+1.6ポイントとなった。

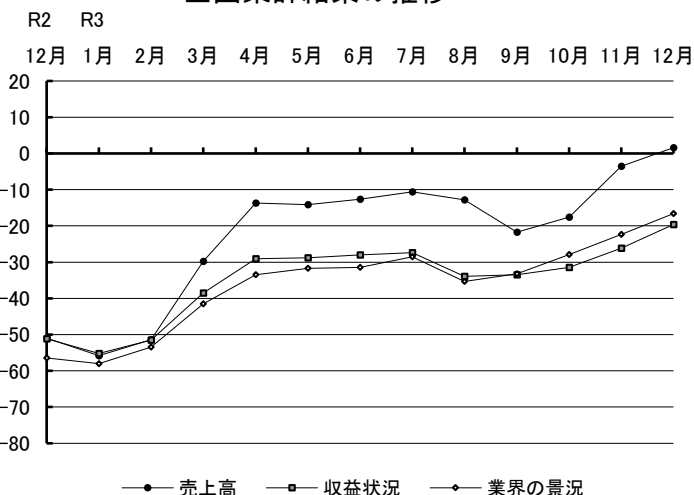
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より3.8ポイント上昇し、-26.9ポイントとなった。全国においては、前月より6.5ポイント上昇し、-19.6ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より3.8ポイント上昇し、-15.4ポイントとなった。全国においては、前月より5.7ポイント上昇し、-16.6ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概況-

12月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中8指標が上昇した。主要3指標は「売上高」は11.5ポイント上昇、「収益状況」が3.8ポイント上昇、「業界の景況」が3.8ポイント上昇となった。コロナ感染状況が落ち着いていることから年末に向けて生産や消費に持ち直しの動きが見られた。

業種別・指標別にみると、製造業全体では「食料品製造」で「売上」が前月よりも下降し厳しい。また、「木材・木製品」ではウッドショックは、収束の兆しが見え始め一部で売上高の増加があるものの、各種資材等の仕入難・価格高騰が未だ収まっておらず厳しいままである。「一般機器」では、仕入資材の高騰や一部調達が困難な状況に変わらないが収益状況について若干の改善が見られた。非製造業においては、やはり「小売業(飲食業含む)」で依然として厳しいマイナス状態となっている。

感染者数が落ち着き、各業界から業況は上向きになりつつあるとの報告も見られたが、原材料の高騰・部品の調達不安等の声(特に木材・木製品業)や一部で人手不足、人員補充が深刻化しているとの声も上がっている。今後、オミクロン株の感染増加が懸念されていることから、先行き予断を許さない状況に変わりはないといえる。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-50.0	0.0	0.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0	-50.0
繊維・同製品	25.0	-25.0	0.0	0.0	-50.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0
木材・木製品	0.0	-25.0	50.0	0.0	25.0	-25.0	25.0	-25.0	0.0
印刷	0.0	0.0	0.0	0.0	-100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
窯業・土石	-25.0	-50.0	25.0	0.0	-50.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0
鉄鋼・金属	25.0	-25.0	0.0	0.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0
一般機器	50.0	25.0	0.0	-50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
製造業	4.0	-16.0	12.0	-12.0	-24.0	-8.0	-4.0	-12.0	-16.0
卸売業	0.0	-33.3	0.0	0.0	0.0	-33.3		0.0	0.0
小売業	-57.1	-28.6	28.6	-28.6	-71.4	-28.6		-14.3	-57.1
サービス業	0.0		16.7	0.0	-50.0	-16.7		0.0	0.0
建設業	20.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
運輸業	-25.0		0.0	0.0	0.0	-25.0		0.0	0.0
その他	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-14.8	-30.0	11.1	-7.4	-29.6	-18.5		-3.7	-14.8
全体	-5.8	-20.0	11.5	-9.6	-26.9	-13.5	-4.0	-7.7	-15.4

図表2 【指標別DI値の推移】

	2年 12月	3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	前月比
売上高	-48.1	-50.0	-40.4	-21.2	-3.8	5.8	-3.8	-7.7	-15.4	-25.0	-25.0	-17.3	-5.8	11.5
在庫数量	-25.7	-14.3	-8.6	-11.4	-20.0	-17.1	-14.3	-20.0	-17.1	-25.7	-8.6	-8.6	-20.0	-11.4
販売価格	-7.7	-13.5	-9.6	-3.8	-3.8	3.8	-5.8	3.8	0.0	-3.8	3.8	5.8	11.5	5.8
取引条件	-19.2	-15.4	-17.3	-11.5	-9.6	-9.6	-15.4	-11.5	-13.5	-17.3	-11.5	-17.3	-9.6	7.7
収益状況	-53.8	-59.6	-46.2	-34.6	-19.2	-3.8	-23.1	-21.2	-32.7	-30.8	-34.6	-30.8	-26.9	3.8
資金繰り	-26.9	-26.9	-26.9	-19.2	-9.6	-13.5	-21.2	-15.4	-23.1	-23.1	-21.2	-15.4	-13.5	1.9
設備操業度	-32.0	-36.0	-24.0	-20.0	-12.0	12.0	0.0	4.0	0.0	0.0	-8.0	-16.0	-4.0	12.0
雇用人員	-11.5	-13.5	-11.5	-9.6	-11.5	-11.5	-11.5	-5.8	-7.7	-5.8	-15.4	-9.6	-7.7	1.9
業界の景況	-51.9	-61.5	-50.0	-36.5	-28.8	-13.5	-28.8	-25.0	-32.7	-36.5	-30.8	-19.2	-15.4	3.8

特記事項

情報連絡員報告（令和3年12月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	売上は、好転しているが、原材料等の値上り等で収益への影響が出てきている。
	あん類製造業	業界では12月が一番忙しい時期だが、コロナが落ち着いている今でも以前ほどの活気は戻っていない。
	縫製業	外国人技能実習生が帰国し、新しく入国が1年間ストップしている為に工場閉鎖および縮小する企業が多くなり、生産スペースが少ないので残存している工場に集中したため仕事量は安定してきている。
繊維工業	染色繊維業	全体業況の好転は望めない状況である。原材料、ガソリンの高騰による運賃等のアップ、電気、産油等の諸経費増に伴い収益状況は悪化している。
	網・レース・繊維粗製品製造業	新たな変異株の動向を心配していたが、今のところ受注件数、売上は大きな影響を受けていない。先月に引き続き前年度同月対比の売上は、改善傾向にある。ただ、ここ数週間の感染者数増加の報道を受けて、消費者意識の変化の中で、購買意欲が削がれてしまうことが心配である。
木材・木製品	一般製材業	ウッドショック問題は収束の兆しが見え始めたが、合板等個別製品間の価格の乖離が顕著であるため納品等のコントロールに苦慮している状況である。
	家具・建具製造業	売上高の増加、販売価格の上昇、操業度の上昇が一部見られるものの大多数の企業は前年同月と変わっていないか減少・悪化の状況にある。
	建具製造業	ウッドショックは続いており、各商材や材料の高騰や仕入難に悩まされている。また、ここにきて人手不足、人員の補充がままならない。
印刷	印刷業	コロナ禍が落ち着けば受注は増えると思っていたが、デジタル化の加速が進み努力はしているが、そこからの収入は少ない。資材等の上昇傾向も足を引っ張っていると懸念している。また、原油高騰により、経済の行く先は不透明である。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼向けは、順調に出荷している。 肥料関係は、春肥の前倒しの影響で若干増加した。 建材関係は、工事物件増により砕石、土質ともに若干増加した。 全体では、昨年に比べて増加した。
一般機器	一般機械器具製造業	令和3年12月の報告は前年同月と比較し、前回報告同様に売上高は微増となっている。仕入れ資材の高値安定も続き一部調達に困難な状況も見受けられ、操業度（稼働）に影響懸念がある。もちろん企業間格差があるものの収益状況の悪化企業はなくなってきている。今後の新型コロナウイルス感染症による感染増加懸念もあり、不安はあるものの今後の動向に注視していく。
	一般機械器具製造業	昨年後半から原材料費の値上げ・調達難、輸送費の値上げ等の影響により、収益が悪化してきている中、新型コロナウイルスの感染が急拡大しており、再び生産への影響が懸念されている。
	一般機械器具製造業	先月同様、好況を維持していますが自動車関係は、半導体の影響が出てきている。建設関係は、かなり好況になってきたが人出不足が深刻化していると思われる。
卸売業	各種商品卸売業	一部業種を除き全体として売上高、収益状況、業況等は前年同期に比べ好転となっている。各社とも仕入単価の上昇が今後懸念されるとしている。

小売業	飲食料品小売業	輸入ビーフ・ポーク・チキンの価格が高騰していて、品不足。国産食肉の相場も高値が続き、先が見えない。緊急事態宣言が続いたため、売上が減少している。石油の値上りでバイオ燃料に回り、家畜飼料も値上りしている状況。
	各種商品小売業	客数は一割程度、前年より更に落ち込んでしまったが、高価格帯商品を取り扱うテナントが好調に推移し、全体の売上高は前年と同水準であった。当面はこの傾向が続いていくものと思われる。
サービス業	旅館・ホテル	12月は市内全域のホテル稼働率は平均60%を超えてきた状況である。12月はコロナ前でも稼働が高い月ではないが、まだまだ道半ばであると感じている。また、第6波が想定されているがその前にどこまで戻せるかがアフターコロナを見据えた中で重要であると考え。 (宴会) 新型コロナウイルス感染拡大により100%ダウン。(飲食店) 12月はコロナ禍以降で一番動きがあった。1月はオミクロン株感染拡大を懸念している。
	給食センター	売上高は、新型コロナウイルスの影響もあるが、新規事業である惣菜の製造販売により前年同月より増加傾向にある。上期は増収減益となっていたが、徹底したコストダウンで徐々に収益は改善されてきた。しかし、新型コロナウイルスが終息しない場合は、収益・資金とも悪化していくと思われる。
建設業	総合工事業	組合員においては、公共工事の完了現場や目鼻立ちした現場もあり、今後の発注や補正予算による県などの公共工事の発注を望んでいる。
	職別工事業	年末にかけ若干ではあるが業績が上向きになってきている。しかし、依然として大型受注工事が伸び悩んでいる。新たなコロナウイルスの拡大が業界に与える影響が懸念される。
運輸業	貨物軽自動車運送業	例年に比べると落ち着いた年末であった。冬タイヤ、クリスマス商戦の商品などの配達が多くを占めた。翌年の引越し問合せ等も少なめではあるが、動きを見せ始めてきている。オミクロン株感染拡大の中でも、動きを取り戻しつつある。
	一般乗用旅客自動車運送業	年末は、昨年と比べるとコロナが落ち着いたこともあり、売上についてはコロナ以前に戻りつつあった。しかし、感染率の高いオミクロン株流行や第6波を懸念している。